

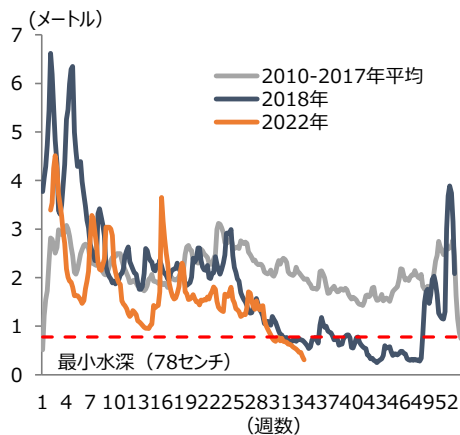
欧州

ライン川水位低下による影響

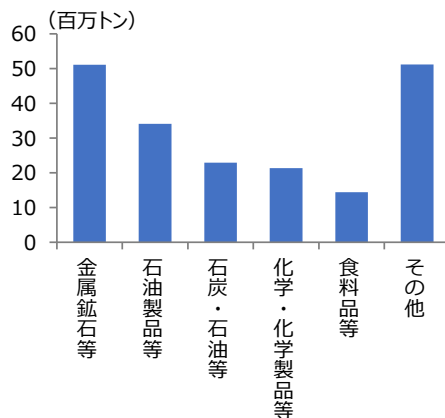
ライン川水位低下が欧州経済の新たなリスク

政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 ライン川（カウブ）の水位



2 ドイツ内陸水運の内訳（2021年）



評価ポイント

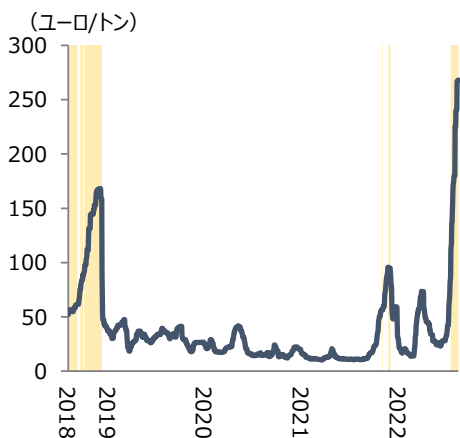
ライン川の水位低下と物流影響

- ドイツの内陸水運の約8割を占めるライン川の水位が熱波の影響などから低下している（図表1）。ライン川の重要拠点であるカウブの水位は、貨物船が問題なく通過できる最小水深（78センチ）を下回っている。現在は積載量を減らすことで対応しているが、40センチを下回ると航行が困難になるとされる。水位が低下した2018年は、貨物船が航行できず、物流や生産に障害が生じた。
- ドイツの内陸水運による輸送は、輸送全体の1割程度にとどまるが、金属鉱石や石油製品、石炭など製造業の上流工程で投入されるもの、かつ重量が重いものが中心となっている（図表2）。

今後の注目点

- 水位の回復は短期間では難しいとみられている。ライン川の問題が、ウクライナ危機、高インフレに直面する欧州経済の新たなリスクとなるだろう。ライン川の水位低下は①物流コストの上昇、②物流遅延による供給制約・生産低下、③エネルギー供給不安、の経路で欧州、特にドイツ経済を下押しするとみる。
- ①の物流コストは、ライン川の貨物運賃は2018年を超える水準まで上昇（図表3）。ライン川が使用できなくなれば、陸路での輸送にシフトするとみられるが、輸送コストは上昇する。さらに、陸路への代替により輸送効率は低下し（②）、企業はコスト上昇と供給制約に直面するだろう。キール世界経済研究所の試算では、低水位が30日間続くことで、ドイツの生産は1%低下する。
- ③について、欧州はロシアからの天然ガス供給の不安定化により、冬のエネルギー確保が課題だ。特にドイツは、ノルドストリーム経由での供給が大幅に減少、ガス不足問題への対応として石炭火力の割合を増やしている（図表4）。
- 石炭需要が高まるなか、欧州は今年よりロシアからの石炭輸入を禁止する。ドイツは石炭の約4割をロシアから輸入してきた。ライン川経由での石炭輸送が困難となれば、天然ガスに加え石炭不足が新たな問題となるだろう。エネルギー供給が不足すれば、経済活動は抑制され、ドイツ経済は失速するとみる。

3 ライン川の貨物運賃



4 発電に占める石炭・ガス火力割合（独）

